

## 第28回にこまちプラン推進・評価委員会 議事要旨

開催日時	令和7年9月19日（金） 14時00分～16時00分
開催場所	西区役所3AB会議室
出席者	<p>【委員】計15名          平野委員、大塚委員、中村委員、澁谷委員、          西岡委員、武田委員、伊藤委員、          並木委員、米岡委員、深野委員、東委員、          竹下委員、田島委員、小菅委員、          鳴神委員、吉田委員、北井委員、渡辺(正)委員、          石渡委員、渡辺(紀)委員、          寺岡委員、遠山委員、金委員、石黒委員、          菊池委員(区長)</p> <p>【意見交換進行】          西尾 敦史氏（愛知東邦大学教授：にこまちプランアドバイザー）          【事務局】市川福祉保健センター長、繁田福祉保健課長、桑原事業企画担当係長、          安部西区社会福祉協議会事務局長 ほか</p>
議事等	<p>○ 開会</p> <p>1 新任委員から自己紹介</p> <p>2 区長挨拶</p> <p>3 第5期にこまちプラン区全体計画の素案について          　　事務局説明：桑原事業企画担当係長</p> <p>4 意見交換</p> <p><b>主な意見</b></p> <p>○ みなとみらい地区についての進捗状況を教えてください。          　　（事務局）みなとみらい地区については第4期までは地区別計画が作られていませんでした。地区には連合自治会はないものの、テーマ別に協議体があるので、第5期策定のタイミングで、それぞれにご提案・ご相談をし、検討を進めてきました。始めに、地域課題を把握するため、アンケート調査を実施しました。その結果を共有しながら、地区別計画のたたき台を作成し、議論を行っています。</p> <p>○ 先日、みなとみらい地区の居住者から、地区別計画になぜみなとみらい地区が入っていないのかと問われました。連合自治会ができていないためと説明しましたが、こうした状況や、みなとみらい地区も含めてにこまちプランが地域の方にどこまで浸透しているか、知らない方も多いと思います。民生委員の地区分科会について、みなとみらい</p>

地区は連合自治会がないため、現在は第五地区に入っていますが、地区区分科会ができると良いと思っています。

(事務局) みなとみらい地区では、地区別計画をどのように進めていくかも議論のテーマとなっています。みなとみらい地区も含め、にこまちプランが一般の方に浸透していないことについては、課題と感じており、認知度を上げるプロモーションを強化していきます。皆さまにもご協力をお願いいたします。

- 前回の策定検討会で言及した災害時の安全に関する意見等が反映されてわかりやすくなったことに感謝します。
- 目標1の「災害ボランティアセンター」について「関係団体による連携の強化」をどのように考えているのか説明いただきたいです。

(事務局) 全国的に、社会福祉協議会が中心となり、責任をもって運営をしています。災害ボランティアネットワークの皆さまには、被災者となる可能性に鑑み、各人の実情に応じて可能な範囲でご協力をいただければと考えております。平常時の啓発活動については、継続的に地域への発信をお願いしています。

- 「要援護者が参加しやすい防災訓練等」とありますが、ずっと立ちっぱなしで辛かった、という話も聞きます。参加機会を向上させる対応をお願いします。障害者が自分ごととして実感できるよう、参加しやすい訓練になるよう工夫してほしいです。

(事務局) 地域防災拠点の訓練では、要援護者の参加を意識してもらうようお願いしています。訓練には区職員も必ず参加しているので、課題と感じることがありましたら、担当職員にご意見・ご感想を伝えていただくようお願いします。

- 2色のスカーフを付ける仕組みがありましたが、継続できておらず、意識されていない状況があります。安心カードなども同様です。

(事務局) 2色のスカーフの仕組みは、地域の方全員が知っているかというと、そうでないことは事実です。昨年度は、対応方法についてのミニ講座を6拠点で実施し、少しずつ進めているところです。今年度も引き続き、配慮が必要な方全般についての対応方法を、ミニ講座などで啓発しています。

- かつて9割、8割あった町内会加入率が現在では 58%しかありま

せん。そうした中で、自分が助ける側であるのか助けられる側であるのかはっきりしなくなっています。「共助をどう進めるか」について、課題としてしっかり検討してほしいです。

- にこまちプランについて、消防署や警察署でどのような扱いをしているのか教えてください。  
消防署としての取組と、にこまちプランで進める取組について、目的や認識が共通したものが多いと感じています。  
共助の推進は、消防署としても難しい課題と考えています。横浜市民防災センターの活用や現地に入った職員からのフィードバックをもとに取り組み、引き続き検討していきます。
- 警察署では委員会でいただいたご意見などについては、関係部署に共有し、通常業務に生かすようにしています。  
共助の推進は、同様に難しい課題と考えています。地域住民が集まる機会を大切にし、自治会等と協力しながら支援していく所存です。
- 交番に人がいないことが多く、何らかのお願いを持っていっても警察署に直接言ってほしいといった対応も見られます。こうしたコミュニケーション部分での改善もお願いします。
- 地域消防団が消防訓練に参加されないのはなぜでしょうか。また、AEDの貸し出しについて、ハードルが高いという声を聞きます。
- 火災等の災害があった場合には、災害現場に駆けつける必要があるため避難所に行けない事情もありますが、平時訓練時のお手伝いについては、基本的に参加できると思います。ただ、消防団では直接の回答がしづらい場合もありますので、消防署にご相談いただければと思います。AEDの貸し出しについては、数に限りがあり、柔軟に対応できない場合もあります。
- 小・中学校側のにこまちプランに対する理解が今一つだと感じています。学校側として周知の取組をもっと行っていただきたいです。
- こどもたちが地域で活躍する場を作ってもらい感謝しています。こどもや保護者は、地域での活躍の場を楽しみにしています。部活動に関わる学校職員は、特にそうしたことを感じています。委員会でいただいたご意見については、きちんと持ち帰って伝えていきます。
- 学校としては、こどもたちが、ゆくゆくは地域を支える人になって

ほしいという願いを持っています。ジュニアボランティアの活動などを含め、地域で活躍する場を作ってもらえることに感謝しています。学校でにこまちプラン全体を網羅的に共有することは難しいかもしれません、区役所の出前講座なども活用してできるところからやつていきたいと思います。

- 西区に住むお父さんお母さん方は、忙しく、地域の活動に参加できない人も多いと思います。こうした中で地域とのつながりが希薄化し、孤立してしまう人もいます。こうした方々がどうしたら参加しやすくするかを考える必要があります。来訪した保護者に対して地域のことをご紹介するなど、スマイル・ポートできっかけを提供し、地域につなぐことができることかと考えています。
- 保護者の横のつながりはあるのでしょうか。
- PTAの活動など、保護者をつなぐ活動はありますが、アンケート結果で地域とこどもの関係性の希薄化が見られるように、課題があるよう感じています。
- 保護者同士のつながりを強化しないと、卒業後に地域のつながりを作っていくことは難しいと思います。
- かつて、障害のある方々とランチ交流会・研修会を行ったことがあります。障害のことを知るきっかけにもなりますし、共有できる部分が多くありました。親御さんが若い世代に変わってきて、同じように行うのは難しいでしょうか。
- 難しくはないと思います。少しずつ障害者支援のネットワークを作り上げてきましたが、現在の課題は、新しい人が入ってこないということです。家と学校をスクールバスで行き来する今の時代には、地域と障害者の接点がありません。一番困っているのは、プランの43ページに出てくる「移動」の問題です。ただ、何かあった時に何でも助けてあげるのではなく、「やさしくしすぎないように、本人たちの力を延ばす」ことが大切です。
- 障害当事者は、社会の中でマイノリティの立場です。にこまちプランの中に、「障害」についての記載があることはありがたいと思っています。障害も様々あり、明らかに目で見て分かる方と、そうでない方がいます。42ページの指標にある「高齢者や障害者が困っていたら助けたい人」の割合は増えている一方で、22ページの区民アンケートにある「障害のある人と接する機会を持ちたい人」の割合は下がって

います。事業所の努力の問題なのか、学校等と連携する機会が必要なのか、幼いころから交流し、知ってもらうことが大切だと思っています。ただ、学校で言うと、先生との関係性ができたかと思うと、異動などで体制が変わり、関係が継続しない場合があります。このプランを進めるうえで、行政なのか、事業所なのか、小学校なのか、誰がどのように引っ張っていくのかを考える必要があると思っています。また、「障害のある人と接する機会を持ちたい人」というアンケートについて、設問の聞き方を工夫する必要があると思います。

- 区社協の全ての分科会で障害に関する課題は出ています。障害への理解は大きく変わってきています。にこまちプランの次期アンケートでは、障害理解の意識がさらに上がるよう、努力していかねばと思っています。各地区の地区別計画について、地域によって課題や特徴は様々ですが、みなさんのご意見を反映して、良いものを作りたいと思っています。
- 今回、52 ページに地区社協についてのページをつくっていただき感謝しています。地区社協が地域で活動するには町内会との良い関係が欠かせません。これからも意識して活動したいと思っています。
- 今回の案は、事務局が実際に色々な所に出向いて自分で感じて書いている、ということが伝わるものとなり、良いなと思っています。例えば、57 ページの「ふれあい会」や 63 ページの「こども食堂」など、各活動をよく見ていただいている。「各地区で特徴ある取組が行われている」という表記が嬉しく、良い案になったと思います。この案を無駄にしないように、それぞれの組織でのご活躍をお願いしたいです。
- 初めて「更生保護活動」を取り上げていただきありがとうございます。「地域で再出発を支える」という部分について、再犯防止以外にも、犯罪をなくす運動や、薬物防止運動など、様々な活動をしているので、書き方を工夫してほしいです。また、具体的な取組や会の名称・内容について知らない人が多いので、大きな課題があると思います。
- インクルーシブの概念は広く、第4地区だけでなく、多くの地区、多くの団体が関わり進めていることを皆さんに知っていただきたいと思います。
- 策定検討会では、障害分野について、障害福祉関係分科会からのみ委員が参加しましたが、障害分野を一人で担うのは荷が重いので、地域自立支援協議会からも参加いただければよかったです。

## 5 西尾教授から（講評）

前向きのご意見を多数いただきました。いただいたご意見をもとに、この計画を進めていってほしいと思います。

私が横浜市内18区それぞれの計画を拝見している中で、西区の計画の特徴としては次のようなものと感じています。

- こども・子育てへの注目度が高いこと
  - ・学校へのアプローチに力を入れていて、学校・こどもたちも自分のこととして受け止めている。さらに進めていけるとよい。
- 障害分野の課題を計画の中で受け止め、推進されていること
  - ・推進の主役として、様々な組織が連携し、ネットワークができるることは、にこまちプランの成果。
- 「地域福祉活動計画」（社会福祉協議会）と一体化した計画を、自分たちの主体性をもって推進していること
  - ・区社協の全ての分科会が参加して議論していることは力強い。社会福祉協議会という団体に主体性を与えている。
- 指標をアウトカムとして示そうと提案していること
  - ・計画がどのように進んだかの評価をアウトプット（行った事業そのものの紹介）にとどめずに、アウトカム（その影響を地域社会の変化や地域住民の意識の変化まで踏み込んで評価）を示そうとしている点が評価できる。
- 分野横断的な取組やプロジェクトがあること
  - ・地域福祉は、生活のあらゆる分野に関係していることがわかりやすく示されている。

## 6 区民意見募集と今後のスケジュールについて

事務局説明：桑原事業企画担当係長

## 7 にこまちのうた

- 閉会